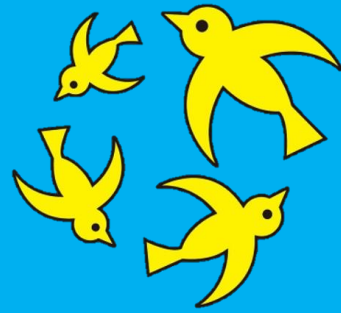


新しい学習指導要領
生きる力
学びの、その先へ

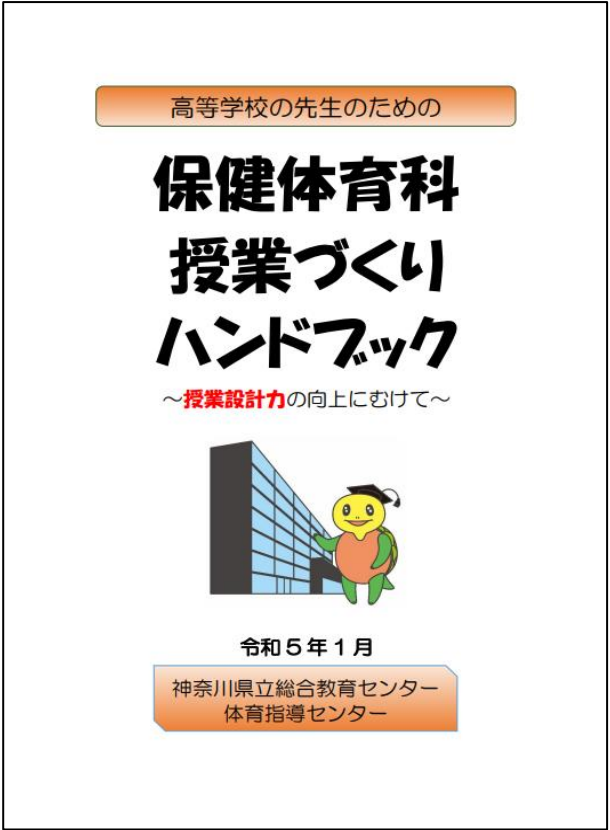


神奈川県教育委員会 教育局 指導部 保健体育課

単元指導計画の作り方の例

次の資料を参考に本資料を作成しています。

- ☑ 高等学校学習指導要領(平成30年告示) 及び その解説 保健体育編 体育編
- ☑ 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料
- ☑ 保健体育科授業づくりハンドブック～授業設計力の向上にむけて～
(神奈川県立総合教育センター体育指導センター作成)



はじめに

柱 書	体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1) 知識及び技能	各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。
(2) 思考力、判断力、表現力等	運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
(3) 学びに向かう力、人間性等	生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

1 日時
2 学年・組・場所
3 単元名
4 単元について （1）単元観 （2）生徒観 （3）指導観
5 単元の目標
6 単元の評価規準
7 単元の指導と評価の計画
8 本時の展開 （1）本時の目標 （2）本時の評価（実現状況を判断する目安を含む） （3）展開

「単元」とは、中央教育審議会答申において「各教科等において、一定の目標や主題を中心として組織された**学習内容の有機的な一（ひと）まとまりのこと**」と示されています。

(1) 単元観 = 教材について

単元で扱う運動がどんな運動であるか、一般的な捉えについて記載する。

⇒ 運動の特性、育成を目指すこと、楽しさや喜び、つまずきや難しさ など

(2) 生徒観 = 生徒について

本授業で学習する生徒の実態について記載する。

⇒ 既習の状況、日常や他の単元での様子、意識調査、発揮を期待する点や課題点 など

(3) 指導観 = 指導について

「教材について」と「生徒について」から、本単元ではどのような指導をするかについて記載する。

⇒ 指導のねらいとその具体的な手立て など

枠で囲まれている記載 **以外** は、

学習指導要領 解説

第2章
保健体育科
の目標及び
内容

び球技に主体的に取り組むとともに、公正、協力、責任、参画、共生などの意欲を育み、健康・安全を確保することができるようにする。

なお、球技の多様な楽しさや喜びを味わうことは、勝敗を競ったりすることを通して得られる楽しさや喜びに加えて、体力や技能の程度等にかかわらず、「する、みる、支える、知る」などのスポーツの多様な楽しさや喜びを味わうことである。

指導に際しては、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の内容をバランスよく学習させ、自己に適したスポーツとの多様な関わり方を考える機会を充実することで、生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指すことが大切である。

(1) 知識及び技能

球技について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(1) 次の運動について、勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解するとともに、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開すること。

ア ゴール型では、状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって空間への侵入などから攻防をすること。

イ ネット型では、状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防をすること。

ウ ベースボール型では、状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と状況に応じた守備などによって攻防をすること。

○ 知識

技術などの名称や行い方では、球技の各型の各種目において用いられる個人の技術やチームとしての作戦や戦術の名称があること、局面ごとに技術の名称があり、それぞれの技術には、技能の向上につながる重要な動きのポイントがあること、また、それらをゲーム中に適切に発揮することが攻防のポイントとなること、それらを身に付けるための安全で合理的、計画的な練習の仕方があることを理解できるようにする。

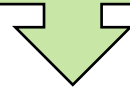
体力の高め方では、球技のパフォーマンスは、型や運動種目によって、主として敏捷性、筋力・筋持久力、スピード、平衡性などの様々な体力要素に強く影響される。そのため、それぞれの種目に必要な体力を技能に関連させながら高めることが重要であることを理解できるようにする。

課題解決の方法では、チームや自己に応じた目標の設定、目標を達成するための課題の設定、課題解決のための練習法などの選択と実践、ゲームなどを通じた学習成果の確認、新たな目標の設定といった過程があることを理解できるようにする。例えば、型や運動種目によって求められる技術や戦術に対して、チームや自己の能力に応じて段階的に目標を設け、その目標に適した具体的な作戦や戦術を設定し、課題に適した

枠で囲まれているのは、

学習指導要領 本文

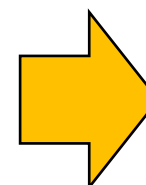
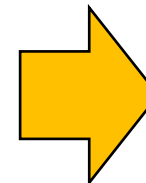
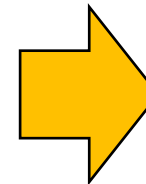
語尾に着目する



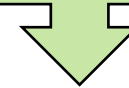
『～を理解できるようにする』
『～できるようにする』

『～触れるようにする』

『必要に応じて扱う程度とする』
『関連付けて扱う程度とする』



指導内容の精選の観点



必ず取り扱う内容

主となる学習内容を
扱った上で触れる内容

伝える程度にとどめる内容

【設定の仕方】

- ・「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の

三つの目標を設定 する。

- ・**学習指導要領** の内容の記載や **その解説** の記載を基にして設定し、

文末は、「～ができるようにする」とする。

- 単元の目標から評価の視点を整理し、学習指導要領解説の記載を参考にして作成する。
- 目標や内容 と 評価の観点 は **名称が異なる**ことに注意する。

・知識及び技能…………… **知識・技能**

・思考力、判断力、表現力等… **思考・判断・表現**

・学びに向かう力、人間性等… **主体的に学習に取り組む態度**

学習指導要領解説の<例示>の文末を変換するなどして単元の評価規準を観点ごとに作成をします。

知識・ 技能	知 識	「～について、言ったり書き出したりしている」(a) ※保健「～について、言ったり書いたりしている」 「～について、学習した具体例を挙げている」(b) (a)一般的に認知された科学的な知識等を内容とするもので、各学校や教師の指導によって大きな相違がないものに用いている。 (b)学校や生徒の実態に合わせて、指導する教師により取り扱われる内容に相違が予想されるものに用いている。
	技 能	「～ができる」
思考・判断・表現		「～している」
主体的に学習に 取り組む態度		「～しようとしている」(a) 「～を確保している」(b) (a)意思や意欲を育てるという情意面の例示に用いている。 (b)「健康・安全」の観点については意欲を持つことにとどまらず、実践することが求められているものであることから文末の表記を変更している。

知 識	<u>指導から期間を置かずに評価する。</u>
技 能	<u>指導後に一定の学習期間を設けて評価する。</u>
思考・判断・表現	<u>指導から期間を置かずに評価する。</u>
主体的に学習に取り組む態度	<u>指導後に一定の学習期間を設けて評価する。</u>

※1時間に設定する評価は、二つまでとする。
(ただし、二つとも観察での評価とならないようにする。)

実現状況	判断の目安	生徒の回答例／特徴的な動き
十分満足(A)	資質・能力の高まり、深まり	
おおむね満足(B)	評価規準	
努力を要する(C)	C評価となる生徒への 具体的な支援や手立てを 事前に想定しましょう	

※5段階(A[○]、A、B、C、C[△])とすることも学校や生徒の実態に応じて想定がされます。

主に、観察 / 学習カード / 観察・学習カード 三つの方法がある。

観 察	○知識 に関して、知ったことを言っていること ○技能 に関して、できるようになったことを行っていること ○思考・判断 に関して、考えたり選んだりしたことを言っていること ○表現 に関して、考えたことを伝えていること ○態度 に関して、しようとしていること
学習カード	○知識 に関して、知ったことを書いていること ○思考・判断 に関して、考えたり選んだりしたことを書いていること ○表現 に関して、考えたことを書いて伝えていること ○態度 に関して、しようとしていることを書いていること

※ デジタル学習基盤を活用 すると、動画や音声の観察、デジタル入力の学習カードなどの方法が広がる。

科目「保健」について

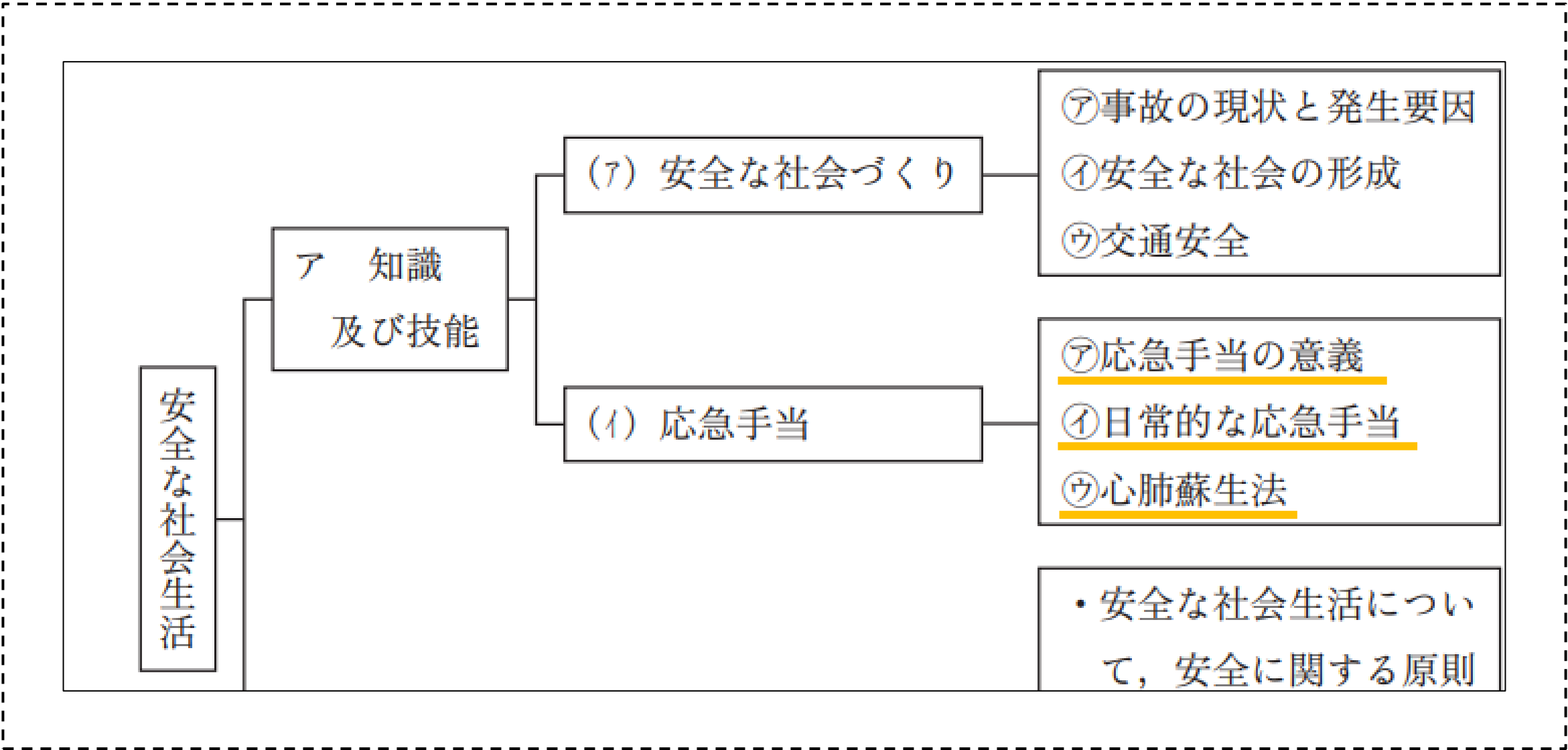
※ (2) 安全な社会生活 応急手当を例にしています。

柱 書	保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次のとおり育成する。
(1) 知識及び技能	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。
(2) 思考力、判断力、表現力等	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。
(3) 学びに向かう力、人間性等	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

内容のまとまり	単元例	年次※1	時数※2
(1) 現代社会と健康	(ア) 健康の考え方	入学年次	4
	(イ) 現代の感染症とその予防	入学年次	5
	(ウ) 生活習慣病などの予防と回復	入学年次	4
	(エ) 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康	入学年次	7
	(オ) 精神疾患の予防と回復	入学年次	4
(2) 安全な社会生活	(ア) 安全な社会づくり	入学年次	5
	(イ) 応急手当	入学年次	6
(3) 生涯を通じる健康	(ア) 生涯の各段階における健康	その次の年次	7
	(イ) 労働と健康	その次の年次	4
(4) 健康を支える健康づくり	(ア) 環境と健康	その次の年次	5
	(イ) 食品と健康	その次の年次	5
	(ウ) 保健・医療制度及び地域の保健・医療機関	その次の年次	6
	(エ) 様々な保健活動や社会的対策	その次の年次	3
	(オ) 健康に関する環境づくりと社会参加	その次の年次	5

※1 保健の履修学年については、原則として入学年次及びその次の年次の2か年にわたり履修させることとなっています。単元設定および履修学年は各学校において検討の上決定します。

※2 単元の配当時数については、生徒の実態等を考慮し、各学校において決定します。ここでは、標準単位数が2であることを踏まえ、年間35時間で示してあります。保健では、内容のまとまりをそのまま「単元」として捉える場合と、内容のまとまりをいくつかの「単元」にわけて単元設定する場合が想定されます。



- (1) 応急手当の意義、日常的な応急手当、心肺蘇生法について理解することができるようになる。

※解説における各内容のまよりの、イ 思考力、判断力、表現力等 の解説文を参考にする。

安全な社会生活に関わる事象や情報から課題を発見し、自他や社会の危険の予測を基に、危険を回避したり、傷害の悪化を防止したりする方法を選択し、安全な社会の実現に向けてそれらを説明することができるようにする。

※解説 P206

課題発見

思考・判断

(2) 応急手当に関わる事象や情報から課題を発見し、自他や社会の危険の予測を基に、危険を回避したり、傷害の悪化を防止したりする方法を選択し、安全な社会の実現に向けてそれらを説明することができるようになる。

表現

※科目「保健」の目標等を基にして設定する。

(3) 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで
活力ある生活を営む態度を養う。

※解説 P197

(3) 応急手当について、自他や社会の健康の保持増進や回復、それを支える環境づくりについての学習に主体的に取り組もうとすることができるようになる。

- (1) 応急手当の意義、日常的な応急手当、心肺蘇生法について理解することができるようにする。
- (2) 応急手当に関わる事象や情報から課題を発見し、自他や社会の危険の予測を基に、危険を回避したり、傷害の悪化を防止したりする方法を選択し、安全な社会の実現に向けてそれらを説明することができるようにする。
- (3) 応急手当について、自他や社会の健康の保持増進や回復、それを支える環境づくりについての学習に主体的に取り組もうとすることができるようにする。

※ 解説本文の文末表現（～理解できるようにする）に着目し、評価規準を設定することができます。

（1）応急手当

㊦ 応急手当の意義

適切な応急手当は、傷害や疾病の悪化を防いだり、傷病者の苦痛を緩和したりすることを理解できるようにする。また、自他の生命や身体を守り、不慮の事故災害に対応できる社会をつくるには、一人一人が適切な連絡・通報や運搬も含む応急手当の手順や方法を身に付けるとともに、自ら進んで行う態度が必要であること、さらに、社会の救急体制の整備を進めること、救急体制を適切に利用することが必要であることを理解できるようにする。

㊧ 日常的な応急手当

日常生活で起こる傷害や、熱中症などの疾病の際には、それに応じた体位の確保・止血・固定などの基本的な応急手当の方法や手順があることを、実習を通して理解し、応急手当ができるようにする。

㊨ 心肺蘇生法

心肺停止状態においては、急速に回復の可能性が失われつつあり、速やかな気道確保、人工呼吸、胸骨圧迫、AED（自動体外式除細動器）の使用などが必要であること、及び方法や手順について、実習を通して理解し、AED などを用いて心肺蘇生法ができるようにする。

その際、複数人数で対処することがより有効であること、胸骨圧迫を優先することについて触れるようにする。
なお、指導に当たっては、呼吸器系及び循環器系の機能については、必要に応じ関連付けて扱う程度とする。
また、「体育」における水泳などとの関連を図り、指導の効果を高めるよう配慮するものとする。

※ 解説本文の文末表現（～理解できるようにする）に着目し、評価規準を設定することができます。

（1）応急手当

㊦ 応急手当の意義

適切な応急手当は、傷害や疾病の悪化を防いだり、傷病者の苦痛を緩和したりすることを理解できるようにする。また、自他の生命や身体を守り、不慮の事故災害に対応できる社会をつくるには、一人一人が適切な連絡・通報や運搬も含む応急手当の手順や方法を身に付けるとともに、自ら進んで行う態度が必要であること、さらに、社会の救急体制の整備を進めること、救急体制を適切に利用することが必要であることについて、言ったり書いたりしている。

㊧ 日常的な応急手当

日常生活で起こる傷害や、熱中症などの疾病の際には、それに応じた体位の確保・止血・固定などの基本的な応急手当の方法や手順があることを、実習を通して理解したことを言ったり書いたりしているとともに、応急手当ができる。

㊨ 心肺蘇生法

心肺停止状態においては、急速に回復の可能性が失われつつあり、速やかな気道確保、人工呼吸、胸骨圧迫、AED（自動体外式除細動器）の使用などが必要であること、及び方法や手順について、実習を通して理解したことを言ったり書いたりしているとともに、AEDなどを用いて心肺蘇生法ができる。

~~その際、複数人数で対応することがより有効であること、胸骨圧迫を優先することについて触れるようにする。~~
~~なお、指導に当たっては、呼吸器系及び循環器系の機能については、必要に応じ関連付けて扱う程度とする。~~
~~また、「体育」における水泳などとの関連を図り、指導の効果を高めるよう配慮するものとする。~~

※ 本単元において特に重点的に指導する内容の例示を参考に設定することができます。

<例示>

- ・ 安全な社会生活における事象や情報などについて、安全に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見すること。
- ・ 安全な社会づくりについて、様々な事故や災害の事例から、安全に関する情報を整理し、環境の整備に応用すること。
- ・ 交通安全について、習得した知識を基に、事故につながる危険を予測し回避するための自他や社会の取組を評価すること。
- ・ 応急手当について、習得した知識や技能を事故や災害で生じる傷害や疾病に関連付けて、悪化防止のための適切な方法に応用すること。
- ・ 安全な社会生活について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明すること。

※ 本単元において特に重点的に指導する内容の例示を参考に設定することができます。

<例示>

- ~~安全な社会生活における事象や情報などについて、安全に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見すること。~~
- ~~安全な社会づくりについて、様々な事故や災害の事例から、安全に関する情報を整理し、環境の整備に応用すること。~~
- ~~交通安全について、習得した知識を基に、事故につながる危険を予測し回避するための自他や社会の取組を評価すること。~~
- ・ 応急手当について、習得した知識や技能を事故や災害で生じる傷害や疾病に関連付けて、悪化防止のための適切な方法に**応用している**。
- ・ **応急手当**について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて**説明している**。

（単元の目標：学びに向かう力、人間性等）

（3）応急手当について、自他や社会の健康の保持増進や回復、それを支える環境づくりについての学習に主体的に取り組もうとすることができるようにする。



保健については、解説において「学びに向かう力、人間性等」の内容は示されていない。



- 「学びに向かう力、人間性等」の単元の目標があること
- 「知識及び技能」や「思考力、判断力、表現力等」を育む学習活動を通して育成すること
- 「学びに向かう力、人間性等」は単元を通して育成することなどを考慮して、評価規準を設定します。

- ・ 応急手当について、課題の解決に向けての学習に**主体的に取り組もうとしている。**

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 適切な応急手当は、傷害や疾病の悪化を防いだり、傷病者の苦痛を緩和したりすること、また、自他の生命や身体を守り、不慮の事故災害に対応できる社会をつくるには、一人一人が適切な連絡・通報や運搬も含む応急手当の手順や方法を身に付けるとともに、自ら進んで行う態度が必要であること、さらに、社会の救急体制の整備を進めること、救急体制を適切に利用することが必要であることについて、言ったり書いたりしている。 ② 日常生活で起こる傷害や、熱中症などの疾病の際には、それに応じた体位の確保・止血・固定などの基本的な応急手当の方法や手順があることを、実習を通して理解したことを言ったり書いたりしているとともに、応急手当ができる。 ③ 心肺停止状態においては、急速に回復の可能性が失われつつあり、速やかな気道確保、人工呼吸、胸骨圧迫、AED（自動体外式除細動器）の使用などが必要であること、及び方法や手順について、実習を通して理解したことを言ったり書いたりしているとともに、AEDなどを用いて心肺蘇生法ができる。	① 応急手当について、習得した知識や技能を事故や災害で生じる傷害や疾病に関連付けて、悪化防止のための適切な方法に応用している。 ② 応急手当について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。	① 応急手当について、課題の解決に向けての学習に主体的に取り組もうとしている。

単元の終末での生徒の姿を常に念頭に置いて計画をする。



- ◆ 学習の流れについては、学習活動を並べるだけでなく、『その学習活動での、学習内容は何か
(育成を目指す資質・能力は何か)』分かるように構想・記載する。
- ◆ 本単元において特に育成を目指す資質・能力と単元の評価規準の整合性を図る。

指導と評価の計画

次	主な学習活動	知	思	態	評価方法
1	【応急手当の意義】 1 適切な応急手当の意義等について、教室で説明を聞く。 2 応急手当について、習得した知識を事故や災害で生じる傷害や疾病に関連付けて、悪化防止のための方法をワークシートにまとめる。	①			ワークシート
2	【日常的な応急手当】 1 日常に起こる傷害や、熱中症などの疾病の際には、それに応じた体位の確保・止血・固定などの基本的な応急手当の方法や手当をグループ毎に実習を通して、理解できるようにする。また、ワークシートにまとめる。	②			観察 ワークシート
3	【日常的な応急手当】 1 安全な社会生活について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由など話し合ったり、ワークシートなどに記述したりして、筋道を立ててまとめる。		②		ワークシート
4	【心肺蘇生法】 1 心肺停止状態においては、速やかな気道確保、胸骨圧迫、AEDの使用などが必要であること、及び方法や手順について、確認する。 2 社会の救急体制の整備を進めること、救急体制を適切に利用することが必要であることを確認する。				※本時は、指導に生かす評価のみ 観察 ワークシート
5	【心肺蘇生法】 1 心肺蘇生法の実習を行う。 グループ毎に行い、全員が実施する。／方法や手順を確認しながら行う。／よくできたところや課題をワークシートに記入する。 2 実習を通して学習した内容をグループ内で発言し合い振り返りを行う。	③			観察 ワークシート
6	【単元のまとめ】 1 日本におけるよりよい救急医療体制づくりについて、習得した知識や諸外国の状況等を踏まえ、改善をはかり提案する。 2 仲間と意見交換を行い、協働的に学習を進める。 3 単元の振り返りを行い、ワークシートにまとめる。		①	①	観察 ワークシート

(1) 本時の目標・・・育成を目指す資質・能力に合わせて三つの目標を設定する。 文末は「～することができるようにする。」とします。		
(2) 本時の評価・・・「単元の評価規準」より抜き出して記載します。		
(3) 展開・・・・・・・・		
	学習内容・学習活動	指導上の留意点
	※ 生徒を主語にして、生徒が学ぶこと、行うことを書く。	※ 教師を主語にして、教師が行うことを書く。
* はじめに目標を立て、おわりに活動を振り返る。(＝ 自らの学習を調整できるようにする。)		
* 教師の指導場面と生徒が活動に取り組む時間のバランスを考える。(＝ 教師の一方通行の授業としない。)		
* 協働的に活動することのよさを実感できる活動を行う。		

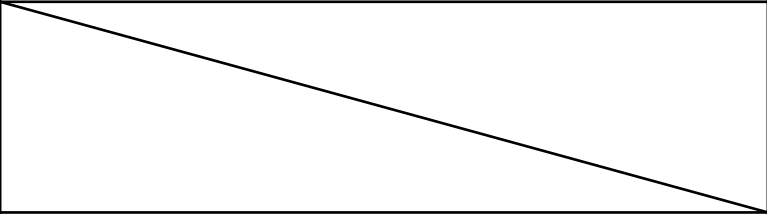
⇒ 単元全体を通して、『主体的・対話的で深い学び』の実現を目指す。

* 生徒が健康・安全に関する関心や意欲を高められること。

科目「体育」について

※ ネット型バレーボール(入学年次)を例にしています。

柱 書	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1) 知識及び技能	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。
(2) 思考力、判断力、表現力等	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。
(3) 学びに向かう力、人間性等	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

	運動に関する領域 （内容のまとまり A～G）	知識に関する領域 （内容のまとまり H）
内容のまとまり （領 域）	A 体づくり運動 B 器械運動 C 陸上競技 D 水泳 E 球技 F 武道 G ダンス	H 体育理論
単 元	ア ゴール型：サッカー（入学年次） イ 剣道（入学年次の次の年次） 等	・ スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展（入学年次） ・ 運動やスポーツの効果的な学習の仕方（次の年次） ・ 豊かなスポーツライフの設計の仕方（次の年次以降）
小単元		・ 入学年次 （ア）スポーツの歴史的発展と多様な変化 等

(1) 次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開すること。

ア ゴール型では、安定したボール操作と空間を作りだすなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすること。

イ ネット型では、役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすること。

ウ ベースボール型では、安定したバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と連携した守備などによって攻防をすること。

(1) 次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができるようになる。

~~ア ゴール型では、安定したボール操作と空間を作りだすなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすること。~~

イ ネット型では、役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができるようになる。

~~ウ ベースボール型では、安定したバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と連携した守備などによって攻防をすること。~~

(2) 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。

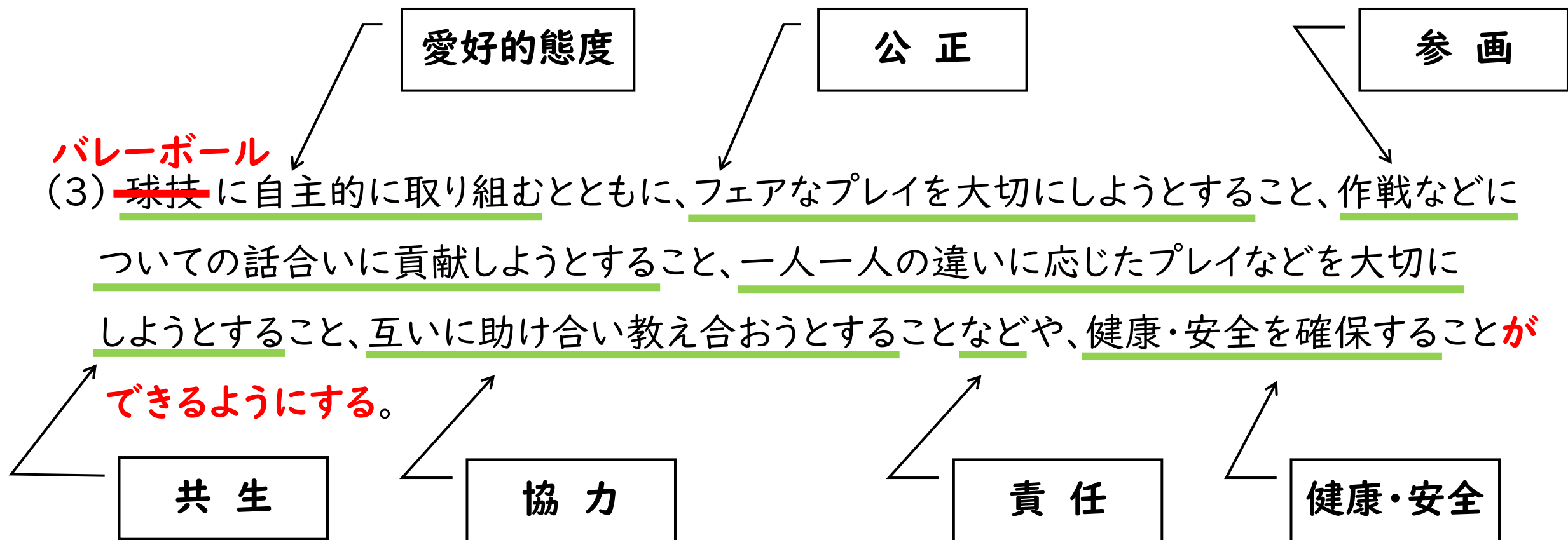
課題発見

思考・判断

(2) 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。

表現

(3) 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする事、作戦などについての話し合いに貢献しようとする事、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする事、互いに助け合い教え合おうとする事などや、健康・安全を確保すること。



- (1) 次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができるようにする。
イ ネット型では、役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができるようにする。
- (2) 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。
- (3) バレーボールに自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする事、作戦などについての話合いに貢献しようとする事、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする事、互いに助け合い教え合おうとする事などや、健康・安全を確保することができるようにする。

※ 本単元において特に重点的に指導する内容の例示を参考に設定することができます。

<例示>

- ・ 球技の各型の各種目において用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあること。
- ・ 戦術や作戦に応じて、技能をゲーム中に適切に発揮することが攻防のポイントであること。
- ・ ゲームに必要な技術と関連させた補助運動や部分練習を繰り返したり、継続して行ったりすることで、結果として体力を高めることができること。
- ・ 練習やゲーム中の技能を観察したり分析したりするには、自己観察や他者観察などの方法があること。

<知識の評価規準>

- ・ **バレーボール**の各型の各種目において用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあること**について、言ったり書き出したりしている。**

~~戦術や作戦に応じて、技能をゲーム中に適切に発揮することが攻防のポイントであること。~~

- ・ ゲームに必要な技術と関連させた補助運動や部分練習を繰り返したり、継続して行ったりすることで、結果として体力を高めることができること**について、学習した具体例を挙げている。**

~~練習やゲーム中の技能を観察したり分析したりするには、自己観察や他者観察などの方法があること。~~

※ 本単元において特に重点的に指導する内容の例示を参考に設定することができます。

＜例示＞

〔役割に応じたボール操作や安定した用具の操作〕

- ・ サービスでは、ボールをねらった場所に打つこと。
- ・ ボールを相手側のコートの空いた場所やねらった場所に打ち返すこと。
- ・ 攻撃につなげるための次のプレイをしやすい高さや位置にボールを上げること。
- ・ ネット付近でボールの侵入を防いだり、打ち返したりすること。
- ・ 腕やラケットを強く振って、ネットより高い位置から相手側のコートに打ち込むこと。
- ・ ポジションの役割に応じて、拾ったりつないだり打ち返したりすること。

〔連携した動き〕

- ・ ラリーの中で、味方の動きに合わせてコート上の空いている場所をカバーすること。
- ・ 連携プレイのための基本的なフォーメーションに応じた位置に動くこと。

知識・技能の評価規準（単元の目標:知識及び技能）

※ 本単元において特に重点的に指導する内容の例示を参考に設定することができます。

<技能の評価規準>

〔役割に応じたボール操作や安定した用具の操作〕

~~ラリーでは、ボールをねらった場所に打つこと。~~

- ・ ボールを相手側のコートの中へ空いた場所やねらった場所に打ち返すことができる。
- ・ 攻撃につなげるための次のプレイをしやすい高さや位置にボールを上げることができる。

~~ネット付近でボールの侵入を防いだり、打ち返したりすること。~~

~~腕やラケットを強く振って、ネットより高い位置から相手側のコートに打ち込むこと。~~

- ・ ポジションの役割に応じて、拾ったりつないだり打ち返したりすることができる。

〔連携した動き〕

- ・ ラリーの中で、味方の動きに合わせてコート上の空いている場所をカバーすることができる。

~~連携プレイのための基本的なフォーム・ポジションに応じた位置に動くこと。~~

思考・判断・表現の評価規準（単元の目標：思考力、判断力、表現力等）

※ 本単元において特に重点的に指導する内容の例示を参考に設定することができます。

<例示>

- ・ 選択した運動について、合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えること。
- ・ 自己や仲間の技術的な課題やチームの作戦・戦術についての課題や課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えること。
- ・ 選択した運動に必要な準備運動や自己が取り組む補助運動を選ぶこと。
- ・ 健康や安全を確保するために、体調や環境に応じた適切な練習方法等について振り返ること。
- ・ ルールを守り競争したり勝敗を受け入れたりする場面で、よりよいマナーや行為について、自己の活動を振り返ること。
- ・ チームで分担した役割に関する成果や改善すべきポイントについて、自己の活動を振り返ること。
- ・ 作戦などの話合いの場面で、合意形成するための関わり方を見付け、仲間に伝えること。
- ・ 体力や技能の程度、性別等の違いに配慮して、仲間とともに球技を楽しむための活動の方法や修正の仕方を見付けること。
- ・ 球技の学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を継続して楽しむための関わり方を見付けること。

思考・判断・表現の評価規準（単元の目標：思考力、判断力、表現力等）

※ 本単元において特に重点的に指導する内容の例示を参考に設定することができます。

<思考・判断・表現の評価規準>

- ・ **バレーボール**について、合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に**伝えている**。
~~自己や仲間の技術的な課題やチームの作戦・戦術についての課題や課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えること。~~
- ・ **バレーボール**に必要な準備運動や自己が取り組む補助運動を**選んでいる**。
~~健康や安全を確保するために、体調や環境に応じた適切な練習方法等について振り返ること。~~
- ・ ルールを守り競争したり勝敗を受け入れたりする場面で、よりよいマナーや行為について、自己の活動を**振り返っている**。
~~チームで分担した役割に関する成果や改善すべきポイントについて、自己の活動を振り返ること。~~
~~作戦などの話合いの場面で、合意形成するための関わり方を見付け、仲間に伝えること。~~
- ・ 体力や技能の程度、性別等の違いに配慮して、仲間とともに**バレーボール**を楽しむための活動の方法や修正の仕方を**見付けている**。
~~球技の学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を継続して楽しむための関わり方を見付けること。~~

主体的に学習に取り組む態度の評価規準（単元の目標：学びに向かう力、人間性等）

※ 本単元において特に重点的に指導する内容の例示を参考に設定することができます。

<例示>

- ・ 球技の学習に自主的に取り組もうとすること。
- ・ 相手を尊重するなどのフェアなプレイを大切にしようとする事。
- ・ 作戦などについての話合いに貢献しようとする事。
- ・ 一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正などを大切にしようとする事。
- ・ 互いに練習相手になったり仲間に助言したりして、互いに助け合い教え合おうとする事。
- ・ 健康・安全を確保すること。

主体的に学習に取り組む態度の評価規準（単元の目標：学びに向かう力、人間性等）

※ 本単元において特に重点的に指導する内容の例示を参考に設定することができます。

<主体的に学習に取り組む態度の評価規準>

~~球技の学習に自主的に取り組もうとすること。~~

- ・ 相手を尊重するなどのフェアなプレイを**大切にしようとしている**。
- ・ 作戦などについての話合いに**貢献しようとしている**。
- ・ 一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正などを**大切にしようとしている**。

~~互いに練習相手になったり仲間に助言したりして、互いに助け合い教え合おうとすること。~~

- ・ 健康・安全を**確保している**。

単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① バレーボールの各型の各種目において用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、言ったり書き出したりしている。 ② ゲームに必要な技術と関連させた補助運動や部分練習を繰り返したり、継続して行ったりすることで、結果として体力を高めることができることについて、学習した具体例を挙げている。	① バレーボールについて、合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えている。 ② バレーボールに必要な準備運動や自己が取り組む補助運動を選んでいる。 ③ ルールを守り競争したり勝敗を受け入れたりする場面で、よりよいマナーや行為について、自己の活動を振り返っている。 ④ 体力や技能の程度、性別等の違いに配慮して、仲間とともにバレーボールを楽しむための活動の方法や修正の仕方を見付けている。	① 相手を尊重するなどのフェアなプレイを大切にしようとしている。 ② 作戦などについての話合いに貢献しようとしている。 ③ 一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正などを大切にしようとしている。 ④ 健康・安全を確保している。

単元の終末での生徒の姿を常に念頭に置いて計画をする。



- ◆ 学習の流れについては、学習活動を並べるだけでなく、『その学習活動での、学習内容は何か
(育成を目指す資質・能力は何か)』分かるように構想・記載する。
- ◆ 本単元において特に育成を目指す資質・能力と単元の評価規準の整合性を図る。

指導と評価の計画

時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
学習の流れ	オリエンテーション	グループ別メニュー（準備運動、補強運動 等）、本時の学習内容の確認												
		基本技術の練習 （レシーブ、トス、スパイク、ブロックなど）					共通メニュー（基本技術の練習）							
		課題練習1			課題練習2			ミーティングタイム						
		ゲーム1 （ラリーが続く楽しさを 味わうゲーム： キャッチアタック プレルボール）		ゲーム2 （状況に応じたルールでのゲームⅠ： セカンドキャッチバレーボール、 ファーストキャッチバレーボール）			ゲーム3 （状況に応じたルールでのゲームⅡ： ダブルセットバレーボール）			ゲーム4 （リーグ戦： 自チームで触球のルールを 決め、相手チームの合意を 受けてゲームを行う）				
		知：高まる体力 態：健康・安全		態：公正 態：参画		技：ねらった場所にボールを打ち返す 技：つなぎのプレイ		態：共生 思：運動実践（公正） 思：運動実践（参画・共生）		技：連携した動き				
		共通メニュー（整理運動、振り返り、次回課題の確認等）												
知	②			①										総括的な評価
技						①	②				④		③	
思				②				①		③		④		
態			①		②				④				③	

(1) 本時の目標・・・育成を目指す資質・能力に合わせて三つの目標を設定する。 文末は「～することができるようにする。」とします。		
(2) 本時の評価・・・「単元の評価規準」より抜き出して記載します。		
(3) 展開・・・・・・・・		
	学習内容・学習活動	指導上の留意点
	※ 生徒を主語にして、生徒が学ぶこと、行うことを書く。	※ 教師を主語にして、教師が行うことを書く。
＊ はじめに目標を立て、おわりに活動を振り返る。(＝ 自らの学習を調整できるようにする。)		
＊ 不要な集合や教師からの説明の場面を減らす。(＝ 必要な場合、必要な説明を精選して行う。)		
＊ 運動等に没頭できる時間を確保する。(＝ 異なる活動をいくつも入れず、一つの活動をじっくり行えるようにする。)		
＊ 協働的に活動することのよさを実感できる活動を行う。		

⇒ 単元全体を通して、『主体的・対話的で深い学び』の実現を目指す。

より詳細を知りたい方や、小学校・中学校について知りたい方は、次の資料を御覧ください。

